活動計画を推進する体制

「こころ豊かな地域づくりの会」

3つの委員会(めざすことを実現するための協議)

- こころに寄り添い合う人づくり委員会
- 見守り・助け合い推進委員会
- くらし応援委員会

・３つの委員会は、取り組みの活動内容や連携に関する課題などを、「こころ豊かな地域づくりの会」に報告します。
・「こころ豊かな地域づくりの会」の役割は、共通の課題や新たな課題の解決に対応する推進体制を整備し、５年間をかけてみんなで創るこころ豊かな地域社会の構築に向けて協議を重ねると同時に、活動計画全体の進捗状況や協議内容を確認し、住民への報告に努めます。
・第４次活動計画や３つの委員会の取り組み内容を、毎年「春まちぽかぽかプロジェクト」で住民へ報告をします。

活動計画の推進における大切にしたいポイント

①自助互助・共助・公助の推進による地域共生社会の実現

本活動計画では、本活動計画の推進で「※自助互助」から見えた課題に対して、共助･公助で取り組むことなどを、行政と連携･協議しながら、地域共生社会の実現をめざしていきます。
（※自助と互助の関係性から、本活動計画では、「自助互助」と表現し、両方を一体として取り扱っていきます。）

②多様性を受容する

地域共生社会の実現の為に、地域に住む人の多様性を互いに認め、受け止める土台が必要であると私たちは考えます。

③地域福祉活動における過程を大切にする

市民一人ひとりや町会･町内会、多様な機関が地域福祉の現状や課題をもとに、実際の活動をすすめる過程として、「知る」⇒「理解する」⇒「共感する」⇒「活動(行動)する」の流れを意識して、活動計画の取り組みを実施していきます。

④福祉文化を醸成する「学ぶ場」をつくる

地域共生社会の実現のために、多様性を認め、他者を「排除しない」「壁をつくらない」地域社会をつくっていきます。これまでの当たり前やこうあるべきという考え方を、寛容な方向に少しずつでも変化させられるよう、地域福祉の意識の醸成の取り組みをすすめていきます。

⑤ボトムアップで推進

一律に目標を掲げてトップダウンで推進するのでなく、能美市に住む人々の声や実態から、その問題や課題について自分たちで対話し、解決に向けて取り組むボトムアップで活動するということを大切に推進していきます。

ボトムアップで推進!!
私たち能美市民が
“私たちのまちづくり計画”
を推進していきます!

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

住所：〒923-1121 石川県能美市寺井町た８番地1
TEL：0761－58－6200 FAX：0761－58－6250
E-mail：nomi@nomi-shakyo.jp
ホームページ：http://nomi-shakyo.jp

QR コード

*活動計画の冊子は、能美市社会福祉協議会にあります。また、上記ホームページからもご覧いただけます。

発行日令和4年3月

概要版

第４次 能美市地域福祉活動計画

令和４年度～令和８年度

基本理念

みんなで創るこころ豊かな地域社会

計画の目的

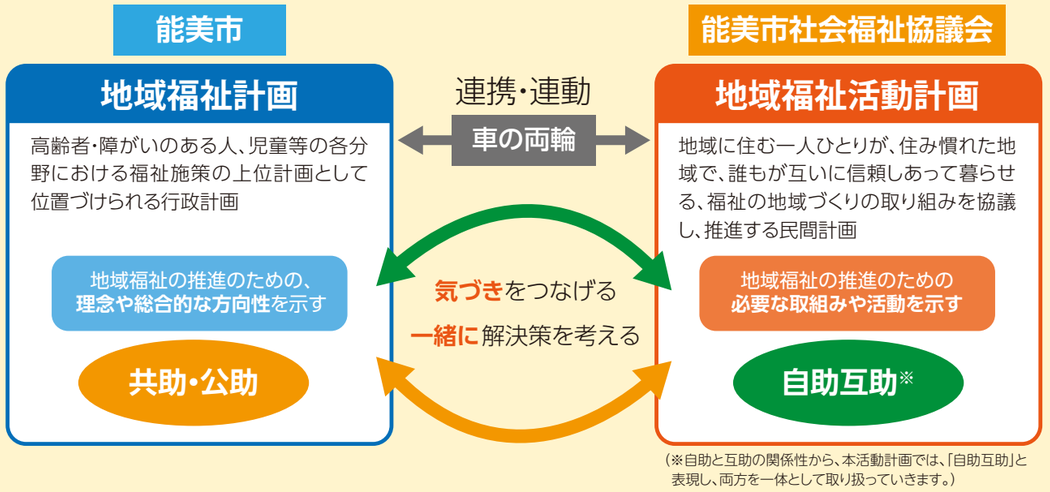
地域福祉活動計画は、「地域共生社会の実現」をめざし、地域の多様な機関と連携･協働し、地域に住む一人ひとりが、住み慣れた地域で、誰もが互いに信頼し合って暮らせる福祉の地域づくりの取り組みを協議し、推進するためのものです。

計画の推進期間

第4次活動計画の推進期間は、令和4年度～令和8年度の5年間とします。

活動計画の位置づけと能美市の計画との関係

第4次活動計画は、今回初めて能美市の「地域福祉計画」と連携し同時期に初めて作成しました。自助･互助･共助･公助を考えると、市計画では制度としての「共助･公助」を推進し、本活動計画は、「自助互助」の地域づくりを推進していきます。両計画が、能美市の市民生活を支える自助･互助･共助･公助の車輪となって、課題解決に向けてみんなで議論し、つながりながら、地域福祉活動の推進を図っていきます。



（※自助と互助の関係性から、本活動計画では、「自助互助」と表現し、両方を一体として取り扱っていきます。）

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

第４次能美市地域福祉活動計画の体系図 ～私たちができること～

基本理念 みんなで創るこころ豊かな地域社会

基本目標 助けたり、助けられたりの地域づくり ～誰一人取り残さない、取り残されない～

方針	委員会	めざすこと（具体的な委員会の取り組みは、活動計画冊子の第４章を参照）	私たちができること（あなたが取り組めることは何でしょうか？）
自助互助による、共生のための意識づくり	こころに寄り添い合う人づくり委員会	① 私たちが暮らす地域の多様な人々に対して、地域ぐるみで共生意識の理解を深めよう。	① 地域の話し合いの場や行事等に興味をもち、みんなで地域の支え合い活動を考えてみよう。
		② 福祉のこころを育むために教育関係者や団体が連携し、共生意識を高め、考える場や機会をつくろう。	① ボランティア活動や研修会、交流会等の場に参加しよう。 ② 福祉のこころを育むための学びの機会に協力し、子どもたちが福祉のこころを受け継げるようにしていこう。
		③ 多様な人々の思いや願いを共有できる場や機会をつくろう。	① 多様な地域の人々の声に耳を傾け、互いに気持ちを伝えたり、考える機会や研修会に参加しよう。
		④ 孤立しない子育て支援について地域ぐるみで考える場や、機会をつくろう。	① 関係機関や団体が発信する子育て支援情報をキャッチしよう。 ② 子育て世帯が地域で気軽に話し合う場に参加することで、地域ぐるみで子育てについて考えてみよう。
		⑤ 研修や啓発活動の機会にICTを活用し、情報発信をすすめよう。	① ICTを活用し、福祉情報を得たり、地域福祉の理解を深める研修会に参加して、幅広く情報をキャッチしよう。
自助互助による、見守り助け合いのしくみづくり	見守り・助け合い推進委員会	① 私たちが暮らす地域をよくするために、地域を基盤とする「地域福祉委員会」活動の充実をすすめよう。	① 地域のことを話し合う場をつくろう。 ② 地域でどんな困りごとや気になることがあるのか考えてみよう。
		② 各町の取り組みや、助け合い活動グループの事例を学び、情報共有をすすめよう。	① いろいろな見守り・助け合い活動を学ぼう。 ② 見守り・助け合い活動の取り組みや仕組みについて情報を共有しよう。
		③ ICTを活用した情報共有や、地域活動の情報発信をすすめよう。	① ICTを活用してつながりをつくろう。 ② ICTを活用して情報を共有しよう。
		④ 福祉施設・企業・商店との連携をすすめよう。	① 地域ぐるみで見守り、助け合い活動をしよう。
		⑤ 地域における助け合いの担い手や理解者の拡充をすすめよう。	① いろいろな世代の人と交流しよう。 ② 得意なことを活かして地域の見守り・助け合い活動をしよう。
自助互助による、つながりのしくみづくり	くらし応援委員会	① 私たちが暮らす地域に相談できる場や機会をつくろう。	① 困った時は、身近な人に相談しよう。 ② 集いの場で相談を受けたら、思いを受け止め次につなげよう。
		② 多様な主体が、それぞれの強みを活かした助け合い活動につなげる話し合いの場をつくり、ネットワークづくりをすすめよう。	① 地域で活動する様々な組織や団体について理解しよう。
		③ 情報発信や情報入手についてICTを活用し、環境を整えよう。	① 市や団体、関係機関が発信する情報への関心を持ち、情報を活用しよう。 ② 知り得た情報を、周りに伝えよう。
		④ 地域における助け合い活動の意識啓発をすすめよう。	① 地域で取り組む助け合い活動を考えよう。 ② 学習会や研修会に積極的に参加しよう。
		⑤ 誰もが地域で活躍する場が広がるようすすめよう。	① これまでの経験や知識を活かして、地域の中でできることを見つけよう。 ② 年齢や特性、人種･文化の違いにかかわらず、多様な価値観を受け入れよう。

～地域福祉活動における大切にしたい過程～ 「知る」⇒「理解する」⇒「共感する」⇒「活動（行動）する」